

5. 5 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会

(1) 活動経緯と活動目標

平成19年（2007年）10月に発足し、第1回の小委員会を同月末に委員11名で開催した。時は正に団塊の世代と呼ばれる人達が定年退職を迎え始めた時期であった。当小委員会は、これらシニアの土木技術者の活用、またこれらの人達が持っている技術や知識の伝承、更には若い世代において現役時代に身に付けておくべき技術や知識、そういった事柄について調査研究していくことを目的とする。

平成19～22年度においては以下の活動を行った。

1) 調査研究

下記のテーマについて調査研究を実施した。

- ・人材結合支援システムのあり方（求職側と求人側とのマッチングシステム）
- ・新しい公共及びソーシャルビジネスの現状
- ・建設系NPOの現状と中間支援組織の必要性
- ・土木学会の役割

2) シンポジウムの開催

土木学会講堂において平成20年5月、21年5月、22年7月の3回開催した。（テーマ：新しい公共、ソーシャルビジネス及び建設系NPOなど）

3) 土木学会誌への投稿

2010年6月号に次の2件の記事を投稿した。

- ・CEレポート： わが国社会の持続的発展に対する土木界の役割
- ・ピックアップ： 成熟したシビルエンジニアの活性化に向けて

平成23～24年度においては以下の活動を行った。

1) アンケート調査

成熟したシビルエンジニアの定年後の活動実態を把握するために次のアンケート調査を行った。

- ・土木学会の会員企業に対するアンケート調査
- ・土木技術者個人に対するアンケート調査

2) インタビュー活動

各分野で活躍するシニアの土木技術者の活動経歴等の紹介をすることとした。平成24年1月から順次インタビューを実施し、小委員会のホームページ上でインタビュー記事を公開した。

以上の活動結果を踏まえ、平成25～26年度は以下の活動目標を掲げて活動を行った。

1) アンケート調査結果の分析

シビルエンジニアの定年退職に関する実態をゼネコン／コンサルタントなどの分野別に把握する。

2) インタビュー活動の継続

現役世代に対して、定年退職後もいきいきと活動していくためには何が必要であるかを示す。

(2) 活動成果

1) 成熟したシビルエンジニアの定年後の活動実態の把握

土木学会では所謂団塊世代の定年退職後の動向を把握するために2006年秋にアンケート調査を実施し、その成果を土木学会誌2007年7月号（平成19年）に掲載している。このアンケート調査で得られた知見を追跡する目的も含めて、土木学会の会員企業に対するアンケート

ト、及び土木技術者個人に対するアンケートを実施した。

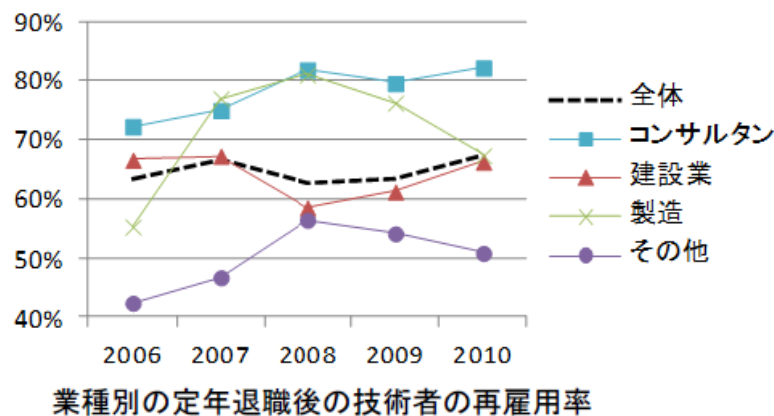
1. 土木学会の会員企業向けアンケート

平成24年3月（2012年）に土木学会会員企業200社を対象に定年後の雇用に関するアンケート調査を実施した。その内容は以下のとおりである。

名称： 定年退職後の技術者の雇用に関する実態調査
期間： 平成24年2月24日～3月31日
対象企業： 土木学会の会員企業の内、会員数の多い上位200社
調査方法： 依頼及び回答ともに郵送
回収件数： 約130社（回収率：約65%）

このアンケート結果について整理分析を実施した結果、再雇用率が67%であり、再雇用者に望む役割は能力・経験を実務に活かすことが96%（複数回答）であることなどを明らかにした。分析結果の詳細については当小委員会のホームページにアップロードしているので参照されたい。

また、この整理分析の結果を土木学会誌に投稿する予定で作業を進めているところである。



2. 土木技術者個人向けアンケート

平成24年12月（2012年）に土木技術者を対象に定年退職後の活動に関する意識調査をアンケート方式で実施した。その内容は以下のとおりである。

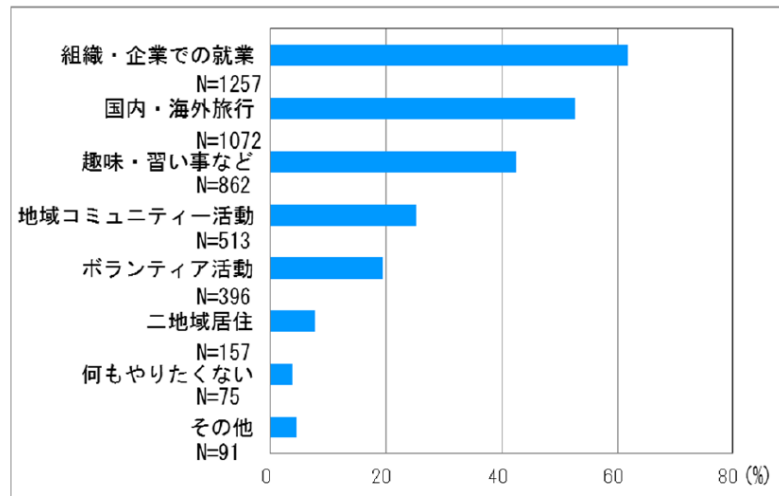
名称： シビルエンジニアの定年退職後の活動に関する意向・実態調査
期間： 平成24年12月5日～12月21日
対象者： 若年層からシニア層までのすべての年代のシビルエンジニア
調査方法： ウェブアンケート方式
土木学会メールニュース第108号（2012年12月5日）で案内し、その他に各協会及び各団体などから案内して頂いた。
回収件数： 約2,000人

このアンケート結果について整理分析を実施した結果、定年退職後に行いたいこと（複数回答）では現在の組織・企業での就業（62%）や国内／海外旅行（53%）が多いことなどを明らかにした。分析結果の詳細（速報版）については当小委員会のホームページにアップロードしているので参照されたい。

また、この整理分析の結果を土木学会論文集に投稿し、現在査読を受けているところであ

る。

定年退職後に行いたいと思っていること (N=2035, 複数回答)



2) 各分野で活躍する成熟したシビルエンジニアの活動経歴等の紹介

定年退職後に社会の中で活躍する（活用される）ためには、現役時代に当人が必要な技術なり知識なりを習得しておく必要がある。どのようなことを習得すべきかを検討する時に参考になるのは先人達の行跡である。従って各分野で活躍するシニアの土木技術者の活動経歴等の紹介をすることとした。

平成 24 年 1 月から順次インタビューを実施し、これまでに 14 名の方に対してインタビューを実施した。その中の 12 名の方については、小委員会のホームページ上でインタビュー記事を公開中である。

インタビュー実施対象者(敬称略)とサブタイトル

番号	対象者	サブタイトル
1	松淵得郎	ずっと現場でやってきた
2	加藤欣一	海外で活躍できる建設コンサルタントとして
3	藤田俊英	for Civilからof Civil, by Civilへ
4	高木千太郎	橋梁のメンテナンス技術者として
5	佐伯光昭	いつでも共にプロフェッションを大事にして
6	正木啓子	夢の架け橋に魅せられて
7	岩本樹雄	土木の面白さを伝えたい
8	青山勇夫	諦めない「シニア・エンジニア」の支援
9	齋藤 源	「長い現役」という考えで働く
10	尾田栄章	根本に遡って物事を見つめる
11	中西利美	培ってきたアナログ技術の伝承
12	井出 宏	技術者の定年年齢は自分で決めるもの
13	有岡正樹	(未定)
14	安江 哲	(未定)

(3) 今後の活動

平成27年度以降においては以下の活動を実施していく。

- 1) 各分野で活躍するシニアの土木技術者の活動経歴等の紹介
継続してインタビューを実施し、その記事を公開していく。また、これらのインタビューをとおして、現役時代に習得すべき技術や知識について検討していく。
- 2) シンポジウムの開催及び習得すべき技術や知識についての取りまとめ
上記の活動結果を踏まえて、その成果をシンポジウム場で紹介し、幅広く意見を聴取する。これらの意見を参考にして、定年退職後に活躍する（活用される）ために現役時代に習得すべき技術や知識について取りまとめる。